

近畿支部

支部長 白山 宏人

近畿支部では多職種での研鑽を目的として、毎年2月に近畿支部年次大会を各府県で開催、開催府県にて開催前年と年次大会の前後に集合研修を主とした教育セミナーを開催しております。ただ新型コロナの影響もあり、2021年度の教育セミナーは12月10日にWebで開催をいたしました。

早期緩和ケア大津秀一クリニックの大津秀一先生に『YouTubeを使った情報発信～患者さんと御家族が緩和ケアに求めているもの～』で御講演頂きました。約40名の参加があり好評を頂きました。その映像は今後供覧できるような形を検討しています。

教育セミナーは大会翌日の2月12日(土曜の午後)に栗東市のウイングプラザで開催を予定しています。

2022年2月11日に滋賀県栗東市にて第28回近畿支部年次大会を開催いたします。大会長を滋賀県立総合病院緩和ケア科の花木宏治先生と彦根市立病院の秋宗美紀さんをお願いしています。

【第28回近畿支部年次大会・滋賀】

大会テーマ『パンデミックによる緩和ケアの病院環境・地域連携・家族関係の変化と見直し』

日程：2022年2月11日(金・祝日) 10時30分～16時

会場：栗東芸術文化会館さきら中ホール

参加費：支部会員1000円 支部非会員：2000円

プログラム：

- ・コロナ禍で学んだ緩和ケアのあり方と将来への展望
滋賀県の5つの緩和ケア病棟から報告を頂きます。
- ・地域からの報告とこれから考えられる緩和ケアの相互連携について
診療所、訪問看護、薬局から報告を頂きます。

大会長より

新型コロナが世界的に拡大し人々の生活に多大な影響を及ぼしている中、我々が関わる「緩和ケア」もそのあり方が問われています。とても個々で対応できるものではなく、互いに情報共有し、これからの緩和を共に考える必要があります。新型コロナ禍のこの1年半の間、緩和ケアを取り巻く環境は大きく変化し、面会制限やボランティアの介入中止に始まり、様々な制約の中、病院で提供する緩和ケアの質の低下が叫ばれています。そして「ギリギリまで在宅で」、「最期まで在宅で」という方が多くなり、療養場所で在宅を選択される患者さん、家族が増え、家族関係の見直し、外来でのフォロー、在宅の医療機関との連携が大切になってきています。それぞれの現状を確かめながら、どう考え、どう工夫、対応されているのか、また今後どこを目指して、どう協力して「緩和ケアの質」を担保していくのかをディスカッションし、「地域のリアルな状況」も学びながら、どう相互に連携していけば良いのかを、滋賀県の具体的な例を示しながら皆さんと一緒に考え、コロナ禍で学んだことを将来に生かしていける会にしたいと考えています。